

## スペイン体験記

私は2021年9月から2022年6月までスペインのアルカラ大学へ留学していました。私の留学は9月から12月の寮に住んでいた時期と、1月から6月までのシェアハウスをしていた時期に大きく分けることができます。

### 9-12月 寮生活

スペインに到着してすぐに、スペイン人の人と二人で出かける機会があったのですがその時の自分は全く彼のスペイン語を聞き取ることができず、何かエピソードトークをされても「Muy bien (いいね)」ぐらいしか返す言葉が見つからないぐらいでした。このように、自分の貧弱なスペイン語力を早々に痛感し、渡航前に持っていた根拠のない自信はあっという間に崩れることとなりました。私はもともと自分からほかの人に積極的に話しかけていくようなタイプではなかったので、自信を無くしてますます知らない人に話しかける勇気がなくなっていました。寮に入ってから二週間は、アルカラ大学のカリキュラムがまだ始まっていなかったのもあってほとんど人がいなかったのもあり、日本人以外の友達がいなかった状況でした。それでも、一人でジムでバスケをしていたり食堂でご飯を食べているときに話しかけてくれる優しい人たちに恵まれて、少しずつですが友達が増えていきました。彼らとお互いの国の文化や風習、それぞれの価値観について共有していくうちに自然と仲良くなり、その会話の中で自分の語学力も向上していくのを感じることができました。ただ、友達が増えていくにつれて、自分の英語力の低さにも気づくこととなりました。なぜなら、留学生の中にはスペイン語を全く話さない人もいたので、そのときは共通言語として全員が英語を自然と話しており、ほとんどの人がネイティブと問題なくコミュニケーションができるレベルだったからです。今まで英語から逃げてきた自分にとっては、スペイン語以上に大きな壁を感じました。このように自分の言語レベルの課題は日々感じつつも、様々な国の友達に恵まれて、週末にはマドリード市内に遊びに行ったり、旅行に行くこともありました。異なる国の人と出かけるのはとても新鮮で、お互いに自分の感情や感想を母語を話すときのように表現しきれない状況で、同じ景色を見たり同じものを食べたりして感じたことを共有するために頑張って言葉を紡ぐ時間がとても感慨深く、自分の留学生活で一番好きな時間の一つだったと思います。

寮で出会った友達のほとんどが、12月で帰国してしまい、泣いてしまったくらい悲しかったのですが、今でも時々連絡を取るのもので、それが語学の勉強を続けるいいモチベーションとなっています。

この時期の授業内容自体は自分にとってはそんなに難しくなく、文法的な内容は既に知

っているものがほとんどでした。ただ、リスニングとスピーキングに関しては壊滅的だったので、特に最初の頃は、やっている授業内容は分かっている先生が言っていることがほとんど理解できないことが多かったと思います。それでも、授業でのディスカッションやプレゼンテーション、日々増えていくボキャブラリーに支えられて少しずつ改善していったように感じました。

## 1月-6月 シェアハウス

1月からは学校の近くのシェアフラットでシェアハウスを始めました。寮費が月に10万円程かかるため、生活費を抑えたかったのと、異なる国の人たちとの共同生活を通してより文化や価値観の理解を深めようと思ったことが理由としてあります。結論から言って、正直この二つの目的は達成されなかったと思います。

一つ目の目的が達成されなかった原因としては毎月の光熱費が高いこと、円安がひどく進んだこと、そして外食が増えてしまったことがあります。外食が増えてしまったことにも理由があり、それは二つ目の目的が達成できなかったことにも繋がります。

二つ目の目的がうまくいかなかった原因としては、自分がルームメイトの行動を理解できなかったことにあります。例えば、何度か注意しても洗い物やごみ捨てをしなかったり、禁止されているにもかかわらずキッチンで毎週パーティーをしてその後の片づけをしないことが常態化していました。このため、共有スペースに虫が湧いたり不潔な状態になっていることが多く、とても自炊ができる環境ではありませんでした。これは近所から騒音の苦情が入ったりオーナーからも複数回注意されてもすべて無視をして改善されなかったので、どうしようもなかったです。パーティーの後、冷蔵庫に入れたはずの食材が消えていることもあり、彼らのこのような行動が理解できず、自分は毎週パーティーに出かけたりするタイプではなかったため、日常会話はするもののそれ以上仲良くなることはありませんでした。

このようにシェアハウスでの生活はあまりうまくいかなかったですが、その代わりに学校で新しい友人が増え、元々いた友達との関わりもあり、留學生活自体はとても充実したものとなっていきました。週末も学校の友達と遊ぶことが多く、毎日お互いの国のことについて話したり冗談を交えながらより異文化理解を深めていきました。

年明けから3月までの授業は、これまでの授業と重複する部分が多く、そこまで難しくなかったため、課題で追い込まれることもほとんどありませんでした。ただ、3月末からのコースは少しレベルが上がって、ボキャブラリーの量が今までとは比べ物にならないほど増えました。しかし、このレベルになると自分含めて多くのクラスメイトがスペイン語での難しいディスカッションをそれなりにできるようになっていたため毎回の授業が充実していました。毎日課題が多かったですが、自分の成長を感じられたので苦ではなく楽しむことができました。

この留学では、良くも悪くも様々な経験ができましたが、総評して日本の良さを外から知るいい機会になったと思います。もちろんスペインの文化や価値観、歴史や美術など良い部分はたくさんありましたが、スペイン人やスペイン社会の怠慢さにいら立つこともあり、日本の街の清潔さや公共交通機関の正確さ、サービス業の丁寧な接客など日本の“真面目”な部分のありがたさを痛感することも多かったです。

最後に、このコロナ禍での留学は家族や大学の職員の方々など沢山の協力がなければ実現することができませんでした。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。